

資料 山口県橋梁維持管理データベースの開発

宮本 文穂^{*1}・河村 圭^{*2}・石田 純一^{*3}・永田 信人^{*4}

要旨：本研究では、山口県における合理的な橋梁維持管理業務の支援を目的として、著者らが開発を進めている J-BMS(Japanese-Bridge Management System)の基幹システムである橋梁維持管理データベースシステム(J-BMS Data Base system : J-BMS DB)の構築について述べる。J-BMS DB は、3 種類のデータベース(橋梁諸元 DB, 簡易点検 DB, 通常点検 DB)と、各 DB に付随する複数の機能から構成されている。なお、本 DB の開発は、現在、山口県と山口大学との共同研究のもと積極的に進められており、実用化へ向けた試験運用が山口県庁内で実施されている。

キーワード：橋梁維持管理，データベース，Bridge Management System，山口県

1. はじめに

近年、橋梁の維持管理業務の合理化や高度化を支援する橋梁維持管理支援システム(Bridge Management System : BMS)の実用化が強く求められている。このような中、著者らは、J-BMSの研究および開発を行なってきた¹⁾。J-BMSは、統合型のシステムであり、一般的な維持管理フローである「点検・調査」、「診断」、「対策(補修・補強)」の各ステップにおいて様々な支援を行なう複数のサブシステムから構成される^{2),3)}。特に、J-BMSの基幹となる橋梁維持管理データベースシステム(以下、J-BMS DB)の開発は、山口県との共同研究のもと積極的に進められており、実用化へ向けた試験運用が山口県庁内で実施されている⁴⁾。本稿は、2006年8月現在において、山口県庁内で試験運用中の J-BMS DB'06 について記述するものである。

2. 橋梁維持管理データベース (J-BMS DB)

2.1 J-BMS DB の構成

J-BMS DB は、橋梁に関するデータの蓄積、検索、出力を容易かつ効率的に行うことが可能

なシステムである。ここで、図-1には、J-BMS DB の構成とシステムへのログインから各機能への流れを示す。図-1に示されるように、J-BMS DB は、ユーザ認証のための「ログイン画面」、各 DB 群およびユーザサポート機能へアクセスするための「メニュー画面」、さらに、3つの「DB 群(橋梁諸元データベース、簡易点検データベース、通常点検データベース)」とそれに付随する「各種機能」から構成されている。なお、定期点検データベースおよび補修・補強履歴データベースは、その必要性は認識されつつも、プロトタイプシステムの開発には至っていない。

2.2 実用化へ向けて

J-BMS DB は、平成 16 年度より山口県庁において試験運用中である。ここで、図-2には、J-BMS DB の運用形態を示す。J-BMS DB は、山口県庁と地域土木建築事務所間での円滑なデータ流通を目的としており、運用形態としてはインターネットを介したクライアント・サーバシステムとして構築・運用されている。ユーザはインターネット経由でデータの登録および参照

*1 山口大学大学院教授 理工学研究科環境共生系専攻 工博 (正会員)

*2 山口大学大学院助手 理工学研究科環境共生系専攻 工博 (正会員)

*3 山口県 土木建築部宇部港湾管理事務所

*4 山口大学大学院修士課程 理工学研究科知能情報システム工学専攻

を行うほか、本部内のユーザは直接に内部ネットワーク経由でデータの登録および参照などが可能である。この試験運用により、新たな要望や不具合を見出し、その情報をフィードバックした改良を施すことにより、実用に耐えうる、より有用なシステムへの改良を繰り返している。

3. J-BMS DB へのログイン

J-BMS DB へのアクセスは、インターネット経由で行うため、無制限に誰でもアクセスが可能であるとセキュリティ上、問題がある。そのため、J-BMS DB のログイン画面には、ユーザ認証の機能があり、認証されたユーザのみデータベースの閲覧、またデータの新規入力機能へのアクセスが可能となっている。この認証作業が終了すると、メニュー画面へ進み、各データベースへアクセスすることになる(図-3 参照)。

メニュー画面(図-3 参照)は、画面上部の「主要機能のボタン(検索・閲覧機能、新規入力機能、修正・更新機能、J-BMS DB'06 について)」と下部の「更新履歴フレーム」から構成される。ユーザは、実行したい主要機能の下部にあるデータベースボタンをクリックすることにより、目的とする機能の実行画面を表示できる。画面中の「J-BMS DB'06 について」では、J-BMS DB についての解説の閲覧およびマニュアルのダウンロードが可能な「説明」機能、ユーザからの J-BMS DB の改良要望などを記載し、開発者へその情報を簡易に送付することが可能な「コメント掲示板」機能、メニュー画面についてのマニュアルがダウンロード可能な「メニュー画面マニュアル」機能および J-BMS DB にどのような更新が行われてきたかを一覧表示することが可能な「更新履歴表示」機能を実行できる。

4. 橋梁諸元 DB

本章では、橋梁の基本情報である橋梁諸元のデータを蓄積、また検索するための橋梁諸元 DB について記述する。本 DB の開発では、検索・

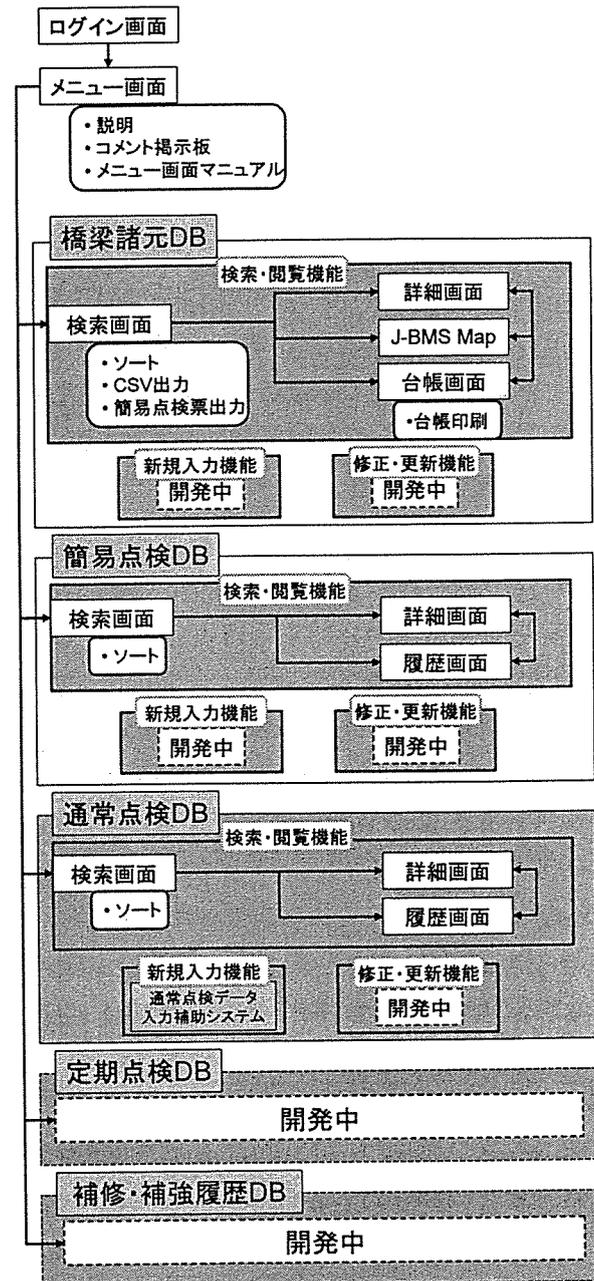


図-1 J-BMS DB の構成図

閲覧機能のプロトタイプの開発が行われ(図-1 参照)、試験運用されている。以下では、橋梁諸元 DB に蓄積されるデータ項目を紹介した後、検索・閲覧機能について解説する。

4.1 データ項目

本 DB の開発は、従来から利用された橋梁台帳を、パソコン画面上に電子橋梁台帳として作成することを目的とし、橋梁諸元に関する 169 項目が実務者との検討によりデータ項目として選択された。169 項目の一例として、表-1には

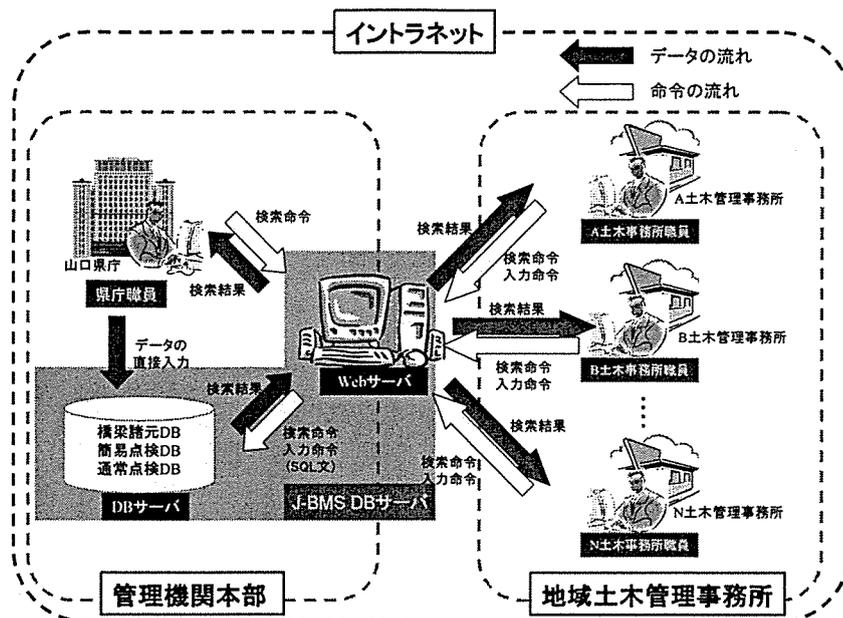


図-2 J-BMS DB の運用形態

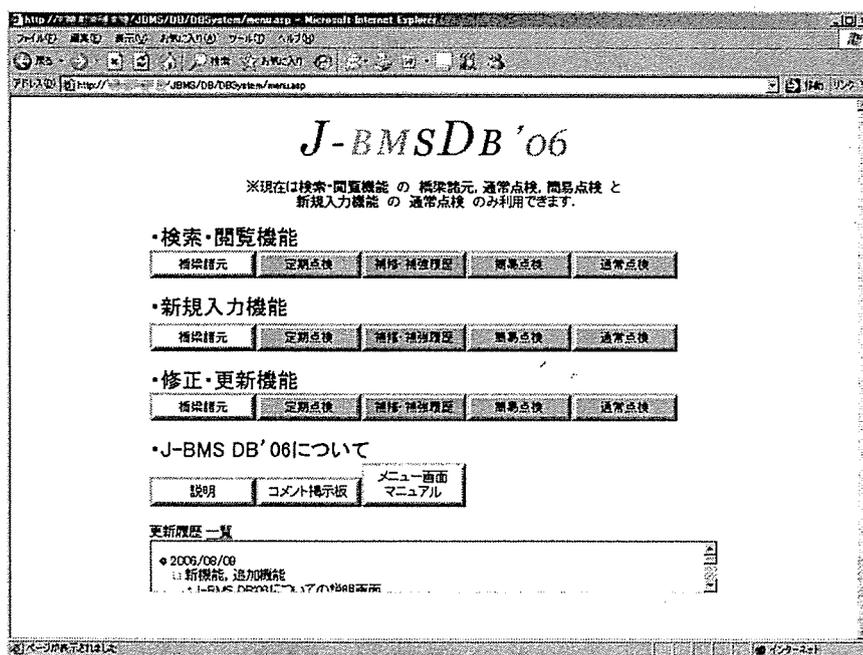


図-3 メニュー画面

主要諸元項目に分類される 72 項目を示す。

4.2 検索・閲覧機能

本機能は、キーワード(検索条件)から目的とする橋梁を絞り込み、対象となる橋梁の諸元データを表示するものである。なお、本機能は、図-3中の「検索・閲覧機能」にある「橋梁諸元」ボタンをクリックすることにより表示される橋梁諸元検索画面(図-4参照)にて利用可能である。本検索画面は、(i) 検索条件設定部、(ii) 出

力項目設定部、(iii) 検索結果出力部の3つのフレームから構成されている。

(1) 検索画面上の機能

検索画面上では、橋梁の「検索」を行った後に、次の3つの機能：「ソート」、「CSV出力」および「簡易点検票出力」が利用できる。なお、これら3つの機能は、本DBにおける検索手法について解説を行った後に説明する。

a)検索：本機能の開発では、維持管理業務で頻繁に利用される「検索項目（検索対象となる橋梁を絞り込むために必要なデータ項目）」および「出力項目（検索結果として画面上へ出力するデータ項目）」の選択を実務者へのヒアリングにより行った。表-2および表-3には、それぞれ、検索項目、また出力項目の一覧を示す。

橋梁諸元検索画面では、まず、図-4の(i)検索条件設定部にて、絞り込み検索を行いたい橋梁の情報を入力する。図-4の例では、検索項目として事務所が選択され、検索条件として大島土木が設定されている。なお、検索項目は、表-2に示したように31項目あるが、初期設定では、頻繁に検索に利用される項目(表-2の背景がグレーの項目)のみ表示される。また、画面上部の「検索条件項目を増やす」のチェックボックスにチェックを入れた場合は、表中のすべての検索項目を利用することが可能となる。

次に、図-4中の(ii)出力項目設定部にて、検索結果一覧にて表示するデータ項目の選択を行う。なお、出力データ項目は、表-3に示したように42項目あるが、初期設定では表-3中の6項目(橋梁番号、管理事務所、路線名、橋梁名、架設年月、橋長)が、検索結果出力部へ出力される。また、出力項目設定部へは、初期設定とし

て、表-3の背景がグレーの項目が表示され、出力項目として選択可能である。さらに、「+詳細」をクリックすると、表-3のすべての項目が表示される。また、いくつかの出力項目の内容は、ソート機能を実行できる。

最後に、画面上部にある「検索」ボタンをクリックすることにより、検索条件設定部で設定

表-1 主要諸元 72項目

番号	項目名称	番号	項目名称
1	橋梁ID	37	有効幅員
2	橋梁番号	38	車道幅
3	管理事務所	39	車線数
4	道路種別	40	橋格
5	路線番号	41	設計速度
6	路線枝番	42	設計活荷重
7	所在地(自)	43	設計震度:Kh
8	所在地(至)	44	設計震度:Ko
9	道路区分	45	費用(上部構造)
10	市町村名	46	費用(下部構造)
11	施設漢字名称	47	費用(基礎構造)
12	施設読み方	48	設計業者(上部構造)
13	距離(自):標高	49	設計業者(下部構造)
14	距離(自):平面距離	50	施工業者(上部構造)
15	距離(至):標高	51	施工業者(下部構造)
16	距離(至):平面距離	52	施工開始年(上部構造)
17	北緯(度)	53	施工開始月(上部構造)
18	北緯(分)	54	施工開始年(下部構造)
19	北緯(秒)	55	施工開始月(下部構造)
20	東経(度)	56	施工終了年(上部構造)
21	東経(分)	57	施工終了月(上部構造)
22	東経(秒)	58	施工終了年(下部構造)
23	交差施設区分1	59	施工終了月(下部構造)
24	交差施設名称1	60	バス路線
25	交差施設区分2	61	迂回路
26	交差施設名称2	62	路線名
27	交差施設区分3	63	DID区間
28	交差施設名称3	64	交通量(平日)
29	架設年	65	交通量(休日)
30	架設月	66	大型車交通量
31	橋長	67	大型化対応
32	最大支間長	68	占用物件
33	支間数	69	海岸からの距離
34	歩道幅員(上り側)	70	凍結防止剤散布の有無
35	歩道幅員(下り側)	71	景観レベル
36	全幅員	72	緊急輸送道路種別

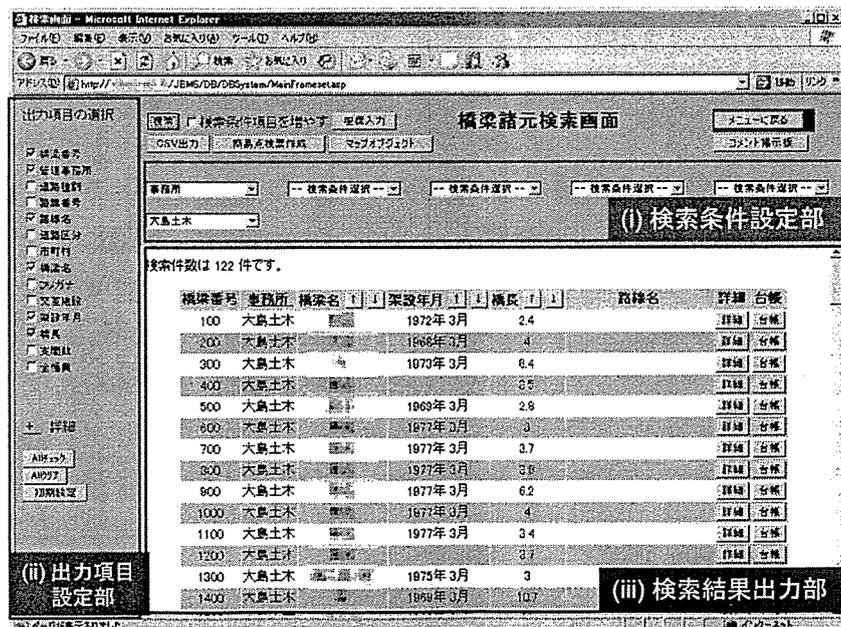


図-4 橋梁諸元検索画面

した条件に合致する橋梁情報が、(iii)検索結果出力部へ一覧として出力される。ここで、検索結果に表示される「詳細」ボタンをクリックすると詳細画面へ遷移し、「台帳」ボタンをクリックすると橋梁台帳画面へ遷移する。

また、検索項目と出力条件項目を設定した後、「検索」ボタンの代わりに「座標入力」ボタンをクリックすれば J-BMS Map を利用した橋梁座標の入力画面へ遷移、「CSV 出力」ボタンをクリックすれば CSV 出力機能へ遷移、「簡易点検票作成」ボタンをクリックすれば、簡易点検票作成機能へ遷移、さらに「マップオブジェクト」ボタンをクリックすれば J-BMS Map の画面へと画面が遷移する。

b)ソート：検索条件によっては、検索条件に合致し出力される橋梁数が膨大になることがある。そのため、出力される検索結果の一部はそれぞれ昇順、または降順にソートが可能となっている。表-3の項目名の末尾に○があれば、検索結果画面において、出力項目名の隣に「↑」ボタンと「↓」ボタンが表示され、それぞれのボタンを押すことにより昇順降順にソートが実行される。

c)CSV 出力：CSV 出力機能では、検索結果出力部に出力された内容をカンマで区切った CSV ファイルとして出力できる。CSV ファイルは、Excel やテキストエディタで読み込み可能なファイル形式であり、テキストベースの文字データのため、内容の修正やデータの扱いが容易という特徴がある。

d)簡易点検票出力：簡易点検票とは、点検現場にて簡易点検結果を記載するための野帳として利用するものである。通常の橋梁諸元検索の場合と同様に、検索条件と出力項目を設定し、検索ボタンの代わりに「簡易点検票作成」ボタンをクリックすることで「簡易点検シート」ボタンのある検索結果一覧が表示される。続いて、点検を実施する橋梁の「簡易点検シート」ボタンをクリックすることにより簡易点検票のダウ

ンロードが可能である。ここで、図-5には、簡易点検票の例を示す。なお、出力される簡易点検票は、データベースへ保存されている橋梁諸元データが点検票に記載された状態で出力されることから、簡易点検前の準備の負担を軽減することが可能である。

(2) 詳細画面上の機能

橋梁の詳細データを参照する場合には、検索結果画面の検索結果一覧にある「詳細」ボタンをクリックすることにより、対象となる橋梁の詳細データ画面を容易に表示できる。図-6には、詳細画面の例を示す。詳細表示画面中で参照可能なデータは、複数のカテゴリ(橋梁諸元、上部工など)に分類され表示される。また、橋梁諸元以外にも平面図、断面図などの橋梁に関する図面や、後述する J-BMS Map による架設場所の地図表示が行える。

表-2 検索項目

番号	項目名称
1	橋梁番号
2	管理事務所
3	道路種別
4	路線番号
5	路線枝番
6	道路区分
7	市町村
8	旧市町村
9	橋梁名
10	交差施設
11	架設年
12	橋長
13	最大支間長
14	支間数
15	橋格
16	設計活荷重
17	交通量(平日 台/12h)
18	大型車交通量
19	上部工材料区分
20	上部工構造形式
21	上部工桁形式
22	橋台材質
23	橋台形式
24	橋脚材質
25	橋脚形式
26	基礎材質
27	基礎形式
28	地盤種別
29	伸縮継手形式
30	落橋防止装置形式
31	舗装種別

表-3 出力項目

番号	項目名称
1	橋梁番号
2	管理事務所
3	道路種別
4	路線番号 ○
5	路線名
6	道路区分
7	市町村
8	橋梁名 ○
9	フリカナ
10	交差施設
11	架設年月 ○
12	橋長 ○
13	支間数 ○
14	全幅員 ○
15	路線枝番
16	所在地
17	距離
18	北緯・東経
19	最大支間長 ○
20	歩道幅員
21	有効幅員
22	車道幅
23	車線数
24	橋格
25	設計速度
26	設計活荷重
27	設計震度
28	費用
29	設計業者
30	施工業者
31	施工開始年月
32	施工終了年月
33	バス路線
34	迂回路
35	DID区間
36	交通量 ○
37	大型車交通量 ○
38	交通量調査年度
39	大型化対応
40	占用物件
41	海岸からの距離
42	凍結防止剤の有無

(3) 台帳画面上の機能

橋梁台帳とは、橋梁の諸元データのうち主要なものを一枚の用紙にまとめて記載したものである。台帳印刷機能を実行するときは、図-4に示した検索結果一覧中の右端にある「台帳」ボタンをクリックすることにより、台帳画面が表示される。台帳画面では、目的の橋梁の台帳であることを確認した上で、「台帳出力」ボタンをクリックすることにより Microsoft 社の Excel 形式でダウンロードが可能である。なお、Excel ファイルには、あらかじめ A4, A3, B4 用の3枚のシートが準備されている。このように各シートを切り替え、印刷することにより3種類の用紙サイズに容易に印刷できる。ここで、図-7には、本機能により出力された Excel ファイルの一例を示す。

(4) J-BMS Map 上の機能

本機能は、橋梁の位置や簡易橋梁情報を電子地図上に表示するものである。図-8には J-BMS Map の検索結果画面を示す。本 Map を用いることにより、検索結果一覧に示される橋梁を地図上にアイコン表示することや、アイコンをクリックすることにより橋梁の情報を表示させることが可能となる。以下には、J-BMS Map が有する各機能を紹介する。

- a)橋梁名の参照機能：検索結果の橋梁を地図上にアイコンで表示し、橋梁の簡易情報と詳細情報を表示する。
- b)地図表示変更機能：地図の表示種類の変更および地図の縮尺を変更する。
- c)距離計測機能：「地図上の距離」を計測するものであり、2点間の直線距離と多点経由の経路距離の計測が可能である。
- d)表示マーカー変更機能：地図上に表示される橋梁所在地を示すアイコン(表示マーカー)の表示項目(架設年, 橋長, 上部工材料区分)や区分の境界線を変更する。これにより、分類された橋梁の分布状況を一目で把握することができる。

e)座標入力機能：地図上の座標表示および入力を支援する。

橋梁番号	橋梁名称	橋長(m)	上部工材料区分	架設年
100	川	27	PC床版橋-ボスアン床版	1972
24	川	22	RC床版橋	1972
18	川	16	RC床版橋	1972
53	川	53	RC床版橋	1972
142	川	142	RC床版橋	1972

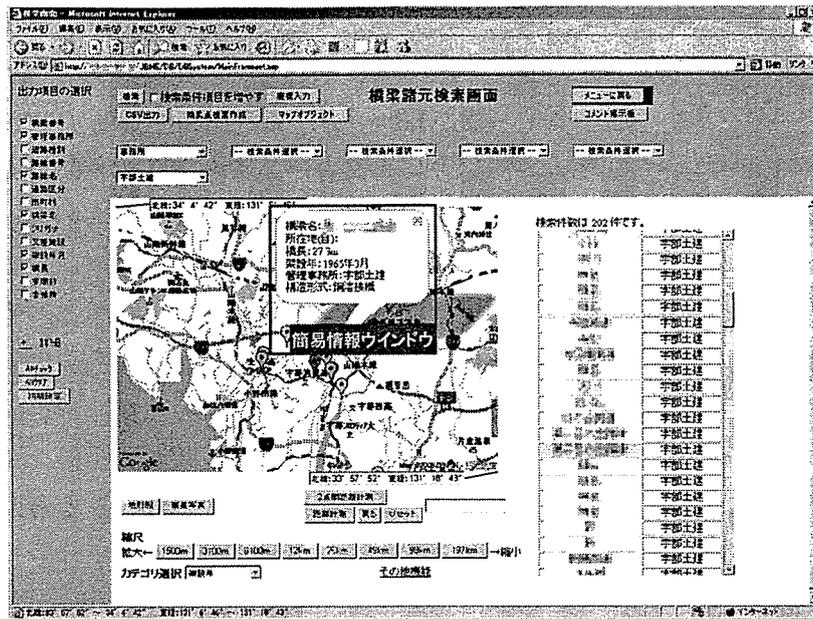
図-5 簡易点検票

橋梁番号	100	橋長(m)	27
橋梁名称	川	架設年	1972
橋梁所在地	川	橋長(m)	27
上部工材料区分	PC床版橋-ボスアン床版	架設年	1972

図-6 詳細表示画面

橋梁番号	橋梁名称	橋長(m)	上部工材料区分	架設年
100	川	27	PC床版橋-ボスアン床版	1972
24	川	22	RC床版橋	1972
18	川	16	RC床版橋	1972
53	川	53	RC床版橋	1972
142	川	142	RC床版橋	1972

図-7 橋梁台帳



図－8 J-BMS Map 画面

5. 簡易点検 DB

本章では、平成 16 年度に山口県で作成された「橋梁簡易初期点検マニュアル(案)」に準拠した点検結果を、格納、また検索することができる簡易点検データベースを紹介する。ここでは、まず簡易点検について解説した後に、簡易点検 DB へ保存されるデータ項目および簡易点検 DB の機能について記述する。なお、前章で紹介したように、諸元 DB には、簡易点検票出力機能があり、簡易点検業務の効率化をサポートしている。

5.1 簡易点検とは

近年、橋梁の劣化・損傷が顕在化し始め、維持管理業務が重要視されている中で、橋梁を効率よく維持管理するためには、計画的に定期点検を行ない、橋梁の現状を把握することが肝要である。しかし、定期点検はコストが高く、山口県では管理しているすべての橋梁に対し、定期点検を行なうことは予算の制約上困難であるのが現状である。そこで、山口県では、低コストで概況の把握が行える点検手法として、平成 16 年度に橋梁簡易点検を提案し、試行した。

橋梁簡易点検は、すべての既存橋梁に対し橋梁の概略現状把握を行うことを主目的としてい

そのため、多数の橋梁に対し点検を行なえるように、点検内容を絞り込み、点検報告書の内容を必要最小限とすることで低コストの点検が実施可能となっている。具体的にはコスト削減のため、点検時には足場の設置を行わず、可能な限り橋梁の下から点検を行なう。足場架設は高コストであるため、足場の設置を行わないことで費用を大幅に抑えることができる。さらに、変状(劣化・損傷)図の作成を行わず、変状の記録を図-5 に示した簡易点検調査票に記入する簡易な形式にすることで報告書作成の費用も抑えている。また、簡易点検の業務は、定期点検とは異なり、県庁の地域土木建築事務所の職員が行う。そのため、業務を外部に委託する場合と比較し非常にコストが軽減される。

コストの削減にのみ主眼が置かれ、点検の精度に不備が生じないように、山口県で試行された橋梁簡易点検では、実施の手引きとして「橋梁簡易初期点検マニュアル(案)」が作成された。本マニュアルでは、代表的な損傷例などをわかりやすく解説し、点検精度を高めるための内容が記載されている。なお、橋梁簡易点検を実施し、その結果として、変状図などの詳細データ

が必要との判断に至った場合には、定期点検もしくは詳細点検など追跡調査を行う。

5.2 データ項目

本 DB へは、30 項目のデータが保存される。これらデータ項目のうち、簡易点検諸元に分類されるデータ項目を表-4 に示す。

5.3 検索・閲覧機能

本機能は、キーワード(検索条件)から目的とする簡易点検データを絞り込み、対象となる簡易点検データを表示するものである。図-9 には、簡易点検データ検索画面を示す。なお、本画面は、検索結果が表示された例である。

(1) 簡易点検検索画面

本機能の開発では、簡易点検データを検索する際に頻繁に利用される「検索項目」および「出力項目」の選択を実務者へのヒアリングにより行った。その結果として、簡易点検データの検索では、検索項目がそのまま出力項目となる。

簡易点検データ検索画面では、まず、図-9 中に示された(i)検索条件設定部にて絞り込み検索を行いたい内容に関する情報を入力する。検索条件を入力した後に、「検索」ボタンをクリックすると、(ii)検索結果出力部に、検索条件に合致する簡易点検データが一覧として出力される。図-9 中の検索結果出力部には、検索結果の表示画面の例を示す。ここで、検索結果に表示される「簡易点検詳細」ボタンをクリックすると簡易点検詳細画面へ遷移し、「点検履歴」ボタンをクリックすると簡易点検履歴画面へ遷移する。また、「詳細」ボタンをクリックした場合は、橋梁諸元 DB の詳細画面へ遷移し、「台帳」ボタンをクリックした場合は、橋梁諸元 DB の橋梁台帳画面へと遷移する。

(2) 簡易点検詳細画面

簡易点検結果の詳細は、図-9 に示した検索結果にある「簡易点検詳細」ボタンをクリックすることにより簡易点検詳細画面として表示される。ここで、図-10 には、簡易点検詳細画面の例を示す。なお、簡易点検データの詳細画

面は、「諸元」と「点検・変状」のページに分割されている。

(3) 簡易点検履歴画面

橋梁簡易点検は、一定の精度の点検を低コストかつ高頻度に行うものである。したがって、定期点検以上に点検の頻度も高まるため、点検の履歴管理が重要になる。点検履歴画面では、対象となる橋梁に対して、過去に実施した簡易点検すべての情報が参照可能となっている。複数の点検結果を時系列的に確認することにより、今後の劣化進行の検討に有用となっている。

表-4 簡易点検諸元項目

番号	項目名称
1	橋梁ID
2	簡易点検ID
3	調査年月日:年
4	調査年月日:月
5	調査年月日:日
6	担当者名
7	所属
8	現況写真(橋面)
9	現況写真(桁下)
10	開始時刻(時)
11	開始時刻(分)
12	終了時刻(時)
13	終了時刻(分)

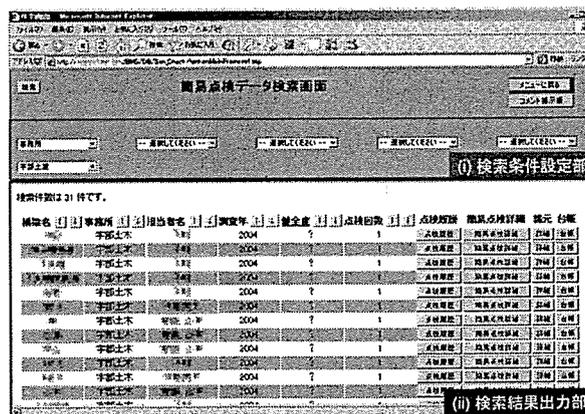


図-9 簡易点検データ検索画面

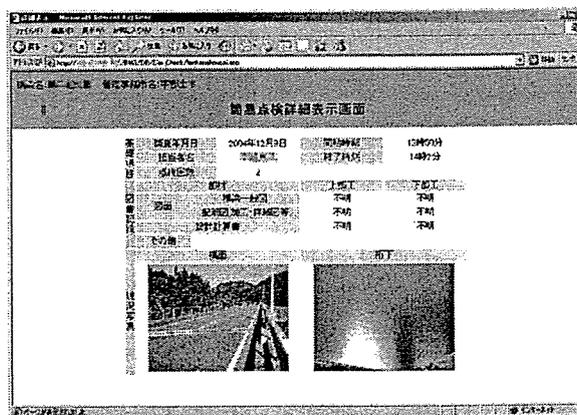


図-10 簡易点検詳細画面

6. 通常点検 DB

本章では、平成 16 年度に山口県で試行された簡易点検の結果を基にして、平成 17 年度に新たに提案された通常点検の結果を、格納、また検索するためのデータベースを紹介する。ここでは、まず通常点検について解説した後に、通常点検 DB へ保存されるデータ項目および機能について記述する。さらに、通常点検結果の電子化および通常点検 DB へのデータ入力の効率化を目的に開発された通常点検データ入力補助システムについて紹介する。

6.1 通常点検とは

山口県では平成 16 年度に「橋梁簡易初期点検マニュアル(案)」を用いた簡易点検が試験的に行われ、その結果を基に、平成 17 年度に新たに「橋梁通常点検マニュアル(案)⁷⁾」(以下、通常点検マニュアルで実施される点検を「通常点検」とする)が提案された。平成 18 年度には試行実施され、点検マニュアルの実効性に関する検証が行われた後に、平成 20 年度には全橋梁の点検を一巡することを目指している。

点検対象の部材は、上部工と下部工あわせて 17 項目、損傷判定は「損傷なし」、「損傷が発生している」、「損傷が著しい」の 3 段階で判定を行い、損傷ごとに写真を撮影する。また、各点検項目に対し損傷判定を行った後に、部材区分もしくは損傷種類ごとに 3 段階で対策区分の判定を行い、さらに所見を記入する。

6.2 データ項目

本 DB へは、点検諸元データ、損傷データなど 33 項目のデータが保存される。これら通常点検のデータ項目のうち、点検諸元データテーブルに分類されるデータ項目を表-5 に示す。

6.3 検索・閲覧機能

本機能は、キーワード(検索条件)から目的とする通常点検データを絞り込み、対象となる通常点検データを表示するものである。図-11 には、通常点検データ検索画面を示す。なお、本画面は、検索結果が表示された例である。

(1) 通常点検検索画面

簡易点検検索画面と同様に、通常点検データ検索画面では、まず、図-11 中に示された(i)検索条件設定部にて絞り込み、検索を行いたい内容に関する情報を入力する。検索条件を入力した後に、画面上部の「検索」ボタンをクリックすると、(ii)検索結果出力部に、検索条件に合致する簡易点検データが一覧として出力される。図-11 中の検索結果出力部には、検索結果の表示画面の例を示す。ここで、検索結果に表示される「通常点検詳細」ボタンをクリックすると通常点検詳細画面へ遷移し、「点検履歴」ボタンをクリックすると通常点検履歴画面へ遷移する。また、「詳細」ボタンをクリックした場合は、橋梁諸元 DB の詳細画面へ遷移し、「台帳」ボタンをクリックした場合は、橋梁諸元 DB の橋梁台帳画面へと遷移する。

(2) 通常点検詳細画面

通常点検結果の詳細は、図-11 に示した検索結果にある「通常点検詳細」ボタンをクリックすることにより通常点検詳細画面として表示される。図-12 には、通常点検詳細画面の例を示す。通常点検データの詳細画面は、「上部工(桁)」、「その他」、「写真台帳」、「写真一覧」、「図面」のページに分割されている。

(3) 通常点検履歴画面

通常点検は簡易点検同様に、定期的にコストを抑えた点検を実施し橋梁の現状の把握を行うものである。点検結果は通常点検が実施されるたびに追加されていくため、点検の履歴の管理は肝要である。通常点検履歴画面は、図-11 に示した「点検履歴」ボタンをクリックすることにより表示される。

表-5 通常点検諸元項目

番号	項目名称
1	橋梁ID
2	通常点検ID
3	点検年
4	点検月
5	点検日
6	点検者
7	点検方法
8	フォルダ名

